

TXP Medical 株式会社

救急医療 DX の現在の課題とその解決。 将来の医療データによる意思決定実現まで

デジタル化によって医療のさまざまな課題が解決できると思われています。しかし、2006年から変わらない課題を抱える救急医療。今回の新型コロナウイルス感染症の流行が、改めて課題を浮き彫りにしました。TXP Medical は、自社の技術力を活かし、1分1秒を争う現場に寄り添った救急医療 DX を提供し、社会課題の解決に取り組んでいます。

更に、リアルタイムの救急現場でのデジタル化によりこれまでの機会損失を改善します。具体例として、急性期治験患者リクルート。脳梗塞や心筋梗塞と言ったいつ発生するか予測不能な患者の治験は、通常の治験と異なり、日本では困難を極めています。その結果、創薬は遅れ、日本は世界から取り残されていきます。

TXP Medical は救急搬送時から現場でのデジタル化により得られたデータから早期の患者集積に介入し、飛躍的な患者集積スピードを実現し、日本の医療の発展に貢献します。



氏名 園生智弘
Tomohiro Sonoo

所属 TXP Medical 株式会社
役職 代表取締役医師

東京大学医学部卒業。救急科専門医・集中治療専門医。臨床業務の傍ら、急性期向け医療データベースの開発や、これに関連した研究を複数実施。自身で開発した救急医療情報システムNEXT Stage ERを中心に事業化。医療現場における適切なITの活用に関して学术界・産業界に積極的な発信を続けている。



救急医療における業務効率化を目的とした病院・救急隊向けデータプラットフォームの提供を軸としつつ、本PF及びデータを活用したライフサイエンス産業向けのサービスも行っています。救急現場における様々なデータを発生源で自動で構造化、各病院・救急隊間でのデータ連携により救急業務の効率化と質の向上を実現。収集されたデータは臨床研究にも活用可能。救急現場で普段使われるNSシリーズのデータはこれまでデータ化/構造化されていなかった情報。これらを活用し、急性期治験をはじめとする医薬品開発業務を支援します。



目指す姿

救急を、変える。
救急が、変える

